第❶日　過去・完了の助動詞

解答

① 都から下った時には、
・旅立ったけれど
③ 1＝こ　2＝せ　3＝せ
④「榎の木の僧正」と言った。
・こんな心があるものなのだなあ。
・花も紅葉もないことだなあ
⑥ かぐや姫と名づけた。
・日も暮れてしまうよ。
・怠けないできっと成し遂げよう。
・風もきっと吹くだろう。
⑧ 美しく咲いていた。
・すぐに続いて（馬を川に）乗り入れた。
・雪がたいそう白く降り積もっている。
・会った者はいない。
⑩ 頼みに思い始めてしまった
・堀へ落としてしまった。
・灰になってしまった。
・まもなく亡くなってしまった。
・長いことわずらっていた。
・閉じこめておいたのに。
・なってしまった。
・役にもたたずに立っていた。

解説

① **「き」**は、変則的な活用をするので、活用のしかたもきちんと確認しておこう。「し」「しか」は、「し」の識別問題にも登場するので注意が肝要。
② 未然形「せ」は、脚注に示した反実仮想のかたちでしか用いられない。
③ カ変・サ変と「き」の接続については、脚注のすべてのパターンを記憶しておく。
④ **「けり」**の基本的意味は、過去であるが、会話文や和歌の中では詠嘆の意で用いられる。口語訳のとき、念入りに確認した方がよい。
⑤ **「き」と「けり」の違い**については、「き」が直接経験の回想を表し、「けり」が伝聞した事柄の回想を表すと考えられる。例文のように、一つの文章に混在する場合、その違いが明らかになることが多いので注意してみよう。

⑥「つ」「ぬ」が強意（＝確述）で用いられるときには、ふつう次のように下に推量の助動詞を伴う。

てむ　つべし　つらむ　てまし
なむ　ぬべし　ぬらむ　なまし

⑧「たり」「り」の原義は存続なので、不自然にならない限り「…テイル」「…テアル」と訳す。

ここまで過去・完了の助動詞六つが出そろったが、基本の意味は二つずつで分担していることを改めて確認しておこう。

・「き」「けり」＝過去
・「つ」「ぬ」＝完了
・「たり」「り」＝存続

⑨「り」は、⑧の脚注に記したとおり元来一単語ではなかったので、形式上、語として扱うと接続が不自然になるのは避けられない。一般的には、サ変の未然形と四段の已然形にのみ接続するとされるので、「さみしいリカちゃん」などと覚える（「さみ」＝サ変未然形、「しい」＝四段已然形。リ＝り、カ＝完了）。

⑩ ここでは〈過去〉〈完了〉のグループどうしの複合したものを取り上げたが、もちろん、他の意味を持つ助動詞と複合して用いられる例も多い。いずれの場合も、できるだけ一つ一つの助動詞の意味を、不自然にならない限り忠実に訳し出すように心がけよう。

口語訳

① 都から（土佐の国に）下った時には、だれにも子どもがいなかった。
・都を春がすみの立つのと一緒に旅立ったが、この白河の関に着いたころには、もう秋風が吹いていることだ

② 世の中に桜というものがまったくなかったとしたら、春の人の気分はどんなにかのんびりしたものであろうに

③ あの方が私を見捨てたので、都がいやになってここまで来たけれど
・私が世を過ごす上でのもの思いにふけっているうちに
・帝づきのご奉公を時々したことがあるので

④ 世間の人々は、「榎の木の僧正」と言ったそうだ。
・「犬などでもこんな（人間のような）心があるものなのだなあ。」とお笑いになる。
・あたりを見渡してみると、花も紅葉もないことだな

あ。この浦の苫屋の見える秋の夕暮れは

⑤ 後徳大寺の大臣が、正殿（の屋根）に鳶をとまらせまいとして縄をお張りになってあったのを、西行が見て、……その後は（このお屋敷に）参上しなかったと聞いておりますが、綾小路の宮が住んでおいでになる小坂殿の屋根の棟に、いつだったか縄をお張りになってあったので、あの（後徳大寺の大臣の）例が思い出されましたが、……

⑥ 秋田は、なよ竹のかぐや姫と名づけた。
・はやく舟に乗れ。日も暮れてしまうよ。
・このこともあのことも、怠けないできっと成し遂げよう。
・潮が満ちてきた。風もきっと吹くだろう。

⑦ 何度も入ろうとするが、閉じたり開いたりして入ることができない。
・（扇は）白波の上にただよって、浮いたり沈んだりしていたので

⑧ その沢に、かきつばたがたいへん美しく咲いていた。
・梶原は、……すぐに続いて（馬を川に）乗り入れた。
・五月の下旬なのに、雪がたいそう白く降り積もっている。
・人をやって見させるが、ぜんぜん（鬼に）会った者はいない。

⑨ 大小二匹の黒い犬を連れていた。
・かぐや姫は、罪を犯されたので

⑩ 夢というものは頼みに思い始めてしまった
・聖の馬を堀へ落としてしまった。
・一晩のうちにすっかり灰になってしまった。
・その方は、まもなく亡くなってしまった。
・あぶない命を拾って、長いことわずらっていた。
・竹籠の中に閉じこめておいたのに。
・別人のように（金持ちに）なってしまった。
・（水車は）とうとう回らなくて、役にもたたずに立っていた。